

～盛岡市の“ひきこもり”の現状～

平成27年度地域政策研究センター(教員提案型・前期)

課題名	: 盛岡地域におけるひきこもりに関する調査研究
研究代表者	: 社会福祉学部 講師 川乗賀也
課題提案者	: 岩手県脳卒中予防県民会議事務局 (岩手県保健福祉部健康国保課)
研究メンバー	: 加藤義男、阿部直樹、加藤源広 (NPO法人もりおかユースポート)、 青木慎一郎 (社会福祉学部)
キーワード	: 社会的ひきこもり、実態調査、長期化

▼研究の概要 (背景・目標)

現在、国内にはひきこもりと言われる若者が90万人以上いると推計されている。これらの問題は盛岡市においても同様で、すでにひきこもりの長期化は問題となっている。これらの問題は当事者が社会参加を希望した際には大きな障害となっており、そこに何らかの支援が必要である。

本調査では盛岡市内のひきこもり者数の推計をおこなうこと、家族の抱えている課題・ニーズを示すことを目的とした。

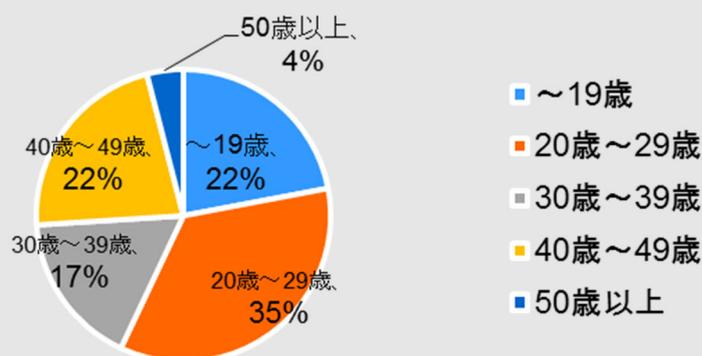
▼研究の内容 (方法・経過)

1. 調査1 民生委員、調査2 ひきこもり当事者家族
2. 調査内容: 民生委員19名には担当地区で何名のひきこもりがいるか把握人数を中押さした。

保護者には同意が得られた41名に対して留め置きによる調査をおこなった。

3. 調査期間 平成27年9月から平成28年3月

ひきこもり当事者の年齢分布

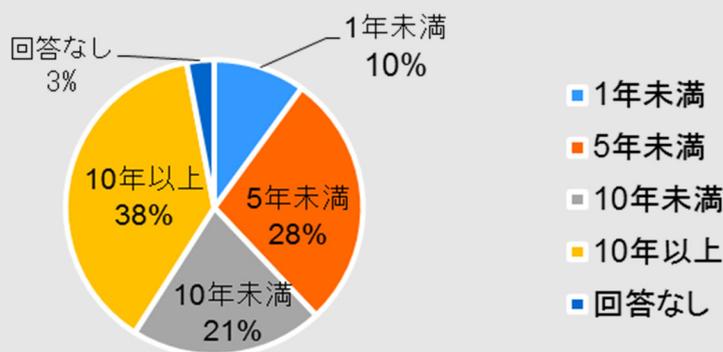


▼研究の成果 (結論・考察)

調査1: 民生委員19名 (5143世帯) のひきこもり把握人数は19名であった。

調査2: 当事者の平均年齢は31.7歳で61%が30歳以上となっており、比較的年齢が高いことが確認された。またひきこもりの期間について10年以上の長期にわたってひきこもっている当事者が49%で介入の困難さが伺えるものであった。

ひきこもりの期間



▼おわりに (まとめ・今後の展開)

1. 得られた結果より、盛岡市の全世帯133,084世帯に換算すると、466世帯にひきこもりが存在すると推計される。これらは狭義のひきこもりの定義によるものであるが、内閣府によると準ひきこもりと呼ばれるものは1.19%の割合で存在するとされており、これらをあわせると2,000名を超えると推計された。また5年以上の長期にわたるひきこもりの割合が59%であったことは介入の困難さがうかがえると共に早急な支援が必要と思われる。今後、ひきこもりから回復した元当事者からインタビューにより回復過程を考察しロールモデルを示した冊子を作成し潜在化したひきこもりを支援に結びつける活動をしたい。最後に本調査にご協力いただいた皆様に感謝します。